

第一章 アタッチメントについて～第二章 内的作業モデルについて

アタッチメントはボウルビィ(1958,1969)が提唱したで母親と子どもの絆を示したものである。そこで築かれた絆は他の対人関係にも影響を与え、内的作業モデルにつながる。そして内的作業モデルの測定では SSP やアタッチメント Q セット法などで安定型、アンビバレント型、回避型というように型別に分けることができる。

第三章 青年期について～第四章 青年期と内的作業モデル

青年期の年齢の範囲や規定された年齢がない。そして、青年期における発達課題については青年期の発達課題であるアイデンティティの確立には恋愛が影響を与える(大野,1995)。そこから、青年期の内的作業モデルと恋愛についてみていくことにした。

目的・方法

安定型、アンビバレント型、回避型の恋愛傾向の違いや男女ではどのような差があるのかを目的にこの研究を行った。

本研究での方法は内的作業モデル尺度の質問紙を行い、インタビュー対象者を選定しインタビューを行った。その後、交際期間について表を記入してもらった。

結果

その結果、表1のように安定型、アンビバレント型、回避型の型ごとに特徴をえることができた。交際期間については、安定型の交際期間が 23.8 ヶ月と型のなかで最長の交際期間であった。

表1、結果からの各型の特徴

	結果
安定型	恋愛をポジティブに考え、結婚についても前向きで、自分の意見を伝えお互いの意見を受け入れ合うことができる。
アンビバレント型	とにかく不安にかられ、自分に自信がないようだが相手の気持ちを感じられると不安も軽減される。
回避型	インタビュー対象者が2人少なく恋愛を利他的にとらえている。

考察

個人の考察では対象者の個々の経験から型が同じでも考え方が少し異なることやインタビュー対象者の選考の際、点数の差が少なくインタビューをした結果型が混ざっているような解答を得た対象者がいた。そのため選定の際点数の差を大きくする必要があった。

質問ごとでは型ごとに解答がバラバラではあったが、よく読んでみると内容が類似していたりして型ごとの違いがみられた。交際期間においては安定型が一番長く、それは相手への信頼や受け入れてもらえるということから不安が少なく、落ち着いて交際していることがその結果につながっていると思われた。

このように本研究では、先行研究における結果をインタビューにより検証する事ができたと言えるであろう。

日ごろ大学生の会話のなかには多くの恋愛についての話題がされている。その中で私は、人によって嫉妬をする場面や恋愛についての考え方、付き合っている中での問題解決の仕方などが異なることを疑問に思い、その違いは何からきているのか考えていた。また、大学の講義においてアタッチメントを知り、そこから内的作業モデルについて学び、恋愛関係に内的作業モデルが何か関係があるのではないかと思いこの研究をすることに決めた。内的作業モデルと恋愛の研究は少なく、Hazan&Shaver(1987)の **Romantic Love Conceptualized as an Attachment Process** また、金政ら(2003)の青年期の愛着スタイルが親密な異性関係に及ぼす影響などがある。その結果から、型によって恋愛の傾向が異なる結果がでていいる。安定型において人は恋愛関係において幸せで、信頼できる、友情のある関係(パートナーに友情を感じやすい)、パートナーに欠点があっても受容し支えることができる。アンビバレント型においては相手への没頭(嫉妬や脅迫的な感情を相手に感じる)、性的に強く惹きつけられる、情緒の起伏が激しい、結婚や見返りを強く求める